

令和7年第8回 魚津市教育委員会会議録

1 開催日時及び場所

令和7年9月1日（月） 場所 第一分庁舎会議室

午後4時00分～午後5時20分

2 出欠について

教育長 山 瀬 敬

1 番 伊 東 潤一郎

2 番 山 浦 春 美

3 番 片 山 さゆり

4 番 松 本 修 治

3 出席職員

事 務 局 長 田 中 明 子

教 育 総 務 課 長 村 崎 博

こ ど も 課 長 前 田 久 則

埋 没 林 博 物 館 管 理 係 長 三 村 幸 一

学 校 教 育 係 長 山 岡 耕 太 郎

文 化 財 保 護 係 長 塩 田 明 弘

ス ポ ー ツ 係 長 廣 川 哲 也

教 育 委 員 会 参 事 入 井 孝 幸

生 涯 学 習 ・ ス ポ ー ツ 課 長 山 本 浩 司

水 族 館 博 物 館 長 清 水 悟 史

学 校 給 食 セ ン タ ー 給 食 係 長 柿 澤 晃 文

総 務 係 長 前 屋 さ お り

生 涯 学 習 ・ 文 化 係 長 布 野 久 美 子

4 傍聴人 なし

5 会議の要旨

午後4時 山瀬教育長が開会を宣言する。

（1）会議録署名委員の指名について

1 番 伊東委員を指名した。

（2）前回会議録の承認

全員異議なく承認した。

（3）議案

議案第29号 魚津市教育支援委員会委員の委嘱について

（4）報告事項

（1） 令和7年度9月補正予算（案）について

（2） 令和6年度事務事業説明書について

（3） 令和6年度各決算に係る主要な施策の成果報告書について

(5) その他

①新プール利用状況について

②第1回魚津市教育振興基本計画策定委員会の報告について

議 案

【魚津市教育支援委員会委員の委嘱について】

教育長	教育支援委員会は年に何回開催されるのですか。
山岡係長	11月に1回開催されます。
教育長	どのようなことが協議の中心になるのですか。
山岡係長	障害の程度によって、通級、支援級、支援学校など、どの段階が適当であるか意見を出し合っています。
教育長	本人の障害の状況、保護者の意向などいろいろな要素を含めて、最終的にこの委員会で基本的な判断をするということによろしいでしょうか。最近の傾向として、難しい点などありますか。
山岡係長	保護者の思いと、本人の教育的ニーズが異なる場合に、お互いの共通認識を図ることが課題であると思います。

報告事項

【令和6年度事務事業説明書について】

松本委員	事務事業説明書の様式が変わったということで、様式の一番下の評価の結果（総括）の部分については、妥当性・有効性・効率性の3つの視点のどれかに重点が置かれている訳ではなく、AやBなどの組み合わせにより自動的に総括の評価がされるということですか。
田中局長	委員がおっしゃるとおりであると認識しています。A・B・Cの組み合わせにより、最も多い判定から判断されるものと思われます。
伊東委員	取り組みの内容に対してのコストはどこかに記載があるのですか。
田中局長	コスト情報は、事業費と人件費から構成されていますが、この事業費部分が実際の取り組み内容に要した費用となります。
伊東委員	その事業費の中に、いろいろな事業の内訳があるはずですが。全体の金額ではなく、個々の事業の金額を出していないのは何か理由があるのですか。
田中局長	特段の理由はなく、個々の事業費を出すことはもちろん可能ですが、本評価表においては、個々の事業費の内訳について記載することを求められていません。
伊東委員	市にとっては事業費合計に対する財源の内訳はとても重要なのだと思いますが、企業では、使ったお金に対しての評価が重要なので、ある事業費の内訳を記載せずに事業の評価を行うことに疑問を感じます。
田中局長	民間の企業とは評価の視点が違うのかもしれませんが、設定した目標に到達すれば効率性がよいという評価となります。ただ、効率性の評価の追求の仕組みではないと言えるかもしれません。行政評価については、民間の企業の評価に比べると、甘い仕組みなのかもしれませんが、現在はこのような形で評価を行って

	るところです。予算に対する決算はもちろん出していますが、その数字を全てこの評価表とリンクさせるとなると、かなりの膨大なものになってしまいます。
伊東委員	事業費、数字からの評価であって、その数字の記載がないのに、どのように評価するのでしょうか。代表的な事業について個別に何件か記載し、その他はまとめてもいいと思いますが、予算に対して決算はいくらという情報がないのはおかしいのではないかなと思います。
田中局長	取組内容に、代表的なものの予算額と決算額の記載をすればいいとのご指摘でしょうか。
伊東委員	記載があればいいと思います。さらに、予算が足りなかったからできなかったということを記載することが重要だと思っています。事務事業の評価の目的は、事務事業の説明なのだと思いますが、来年度の予算のために、予算が足りなかったという事業の取組みについての評価・記載も必要なのではないかと思います。
片山委員	事務事業説明書は誰に向けて作成されたものなのか、評価が全てA又はBである点からも、この評価は適正な評価なのかと感じました。例えば水族館や埋没林博物館など、今後魚津市として資産をどのように活かしていくのか、現場の意見や、子ども達、市民に対してどのくらい有効であったかのような評価を見てみたいと感じました。目の前のことに追われて、資産をどのように活かしていくという視点が欠けているように思います。現場にしか分からないことを、上にあげていく資料であってほしいと思っています。

その他

【第1回魚津市教育振興基本計画策定委員会の報告について】

教育長	第1回策定委員会では、10人の委員にいろいろな意見をいただきました。いかに計画に反映していけるかが重要だと思っています。
伊東委員	国の教育政策の目標には、「教育DXの推進・デジタル人材の育成」という項目があります。第3期計画骨子の第2章の魚津市の教育を取り巻く状況に、情報通信技術（ICT）の進展の記載がありますが、第5章の基本目標達成のための施策と展開には記載がないのはどうしてですか。
村崎課長	第5章の施策1の「2 学力向上の取組み」の部分で、STEAM教育や教育DXの視点も取り入れながら記載したいと思っています。
伊東委員	デジタル人材の育成と教育DXは違うのではないですか。STEAM教育や教育DXは、学力向上の中身のことであり、デジタル教育をできる人材を育成することとは内容が異なると思います。魚津市においても、考慮すべきだと思います。

議事が終了したので教育長が閉会を宣した。